

平成19年度全国学力・学習状況調査

『国語・算数・数学の力は付いています』

昨年4月に全国学力・学習状況調査が実施されました。

全国学力・学習状況調査とは、義務教育の機会均等と水準向上のため、児童生徒の学力や学習状況を把握・分析するとともに、教育の結果を検証し改善を図ることなどを目的とするもので、文部科学省が全国で実施しました。本市では、小学校6年生（全9校603人）、中学校3年生（全6校585人）が参加しました。

そこで今回、土岐市の小・中学生の結果の考察がまとめられましたので、皆さんにお知らせします。

Q どんな調査でしたか？

A 小学校は国語・算数、中学校は国語・数学を知識に関する問題「A」と活用に関する問題「B」に分けたテストによる調査と生活習慣や学習環境等に関する質問紙による調査を行いました。

Q 結果はどうでしたか？学力は付いていますか？

A この結果は、子どもたちの学習や生活の状況全体から見れば、一部分であり、土岐市の学校教育が目指している「確かな学力」は知識、技能はもちろんのこと、たくさんの要素を含んだものですが、この結果を有効に活用すること、大切だと思っています。土岐市全体の調査結果につ

いて、小学校では、わずかに全国の平均正答率を下回っています。A（知識）については、国語・算数ともに8割に達しており、おおむね知識

は身に付いているといえます。中学校では、すべてにおいて全国の平均正答率と同じまたは上回っており、特にB（活用）については、国語・数学ともに全国を上回っています。小・中9年間を見通して、それぞれ段階で子どもたちに確実に学力を付ける指導が、それぞれの学校で積み重ねられていく成果であると考えています。

Q 土岐市の特徴は何でしたか？

A 算数・数学の正答率の分布に顕著な特徴が見られます。

算数の全国の分布が、正答率の増加に伴って徐々に上昇していくならかな曲線で示されるのに対し、土岐市は途中に2つのピークがわずかに見られる二山状の曲線を示しています。中学校数学でも同様の傾向が見られ、特に正答率90%～100%の生徒の割合は、全国のそれを大きく上回っています。

Q 学習・生活アンケートの結果はどうでしたか？

A 1日当たりの家庭での学習時間が2時間以上の割合が全国よりもかなり高くなっています。読書時間については、全国と比較して時間が少ないですが、普段から読書をする

Q 今後どうしていきますか？

子どもたちの方が、国語の正答率が高い傾向が見られます。また、朝食を毎日食べる割合は全国の割合よりも高く、毎日食べる方が、正答率が高い傾向が見られます。さらに、家の人と学校での出来事について話をする子どもたちの方が、正答率が高い傾向がうかがえます。家庭の協力の必要性が分かりました。

A この結果については、「土岐市学力対策委員会」が引き続き分析や考察をします。また各学校の調査結果については、それぞれの学校でまとめています。各学校では、こうした結果の分析を基に、教育委員会と連携しながら、子どもたちにとって学ぶ楽しさのある授業を目指して指導方法などを工夫・改善し、学力の定着と向上をさらに図っていきます。



詳しくは、土岐市教育研究所内線281へどうぞ。